

航空貨物分野における 官民連携プラットフォーム・準備会

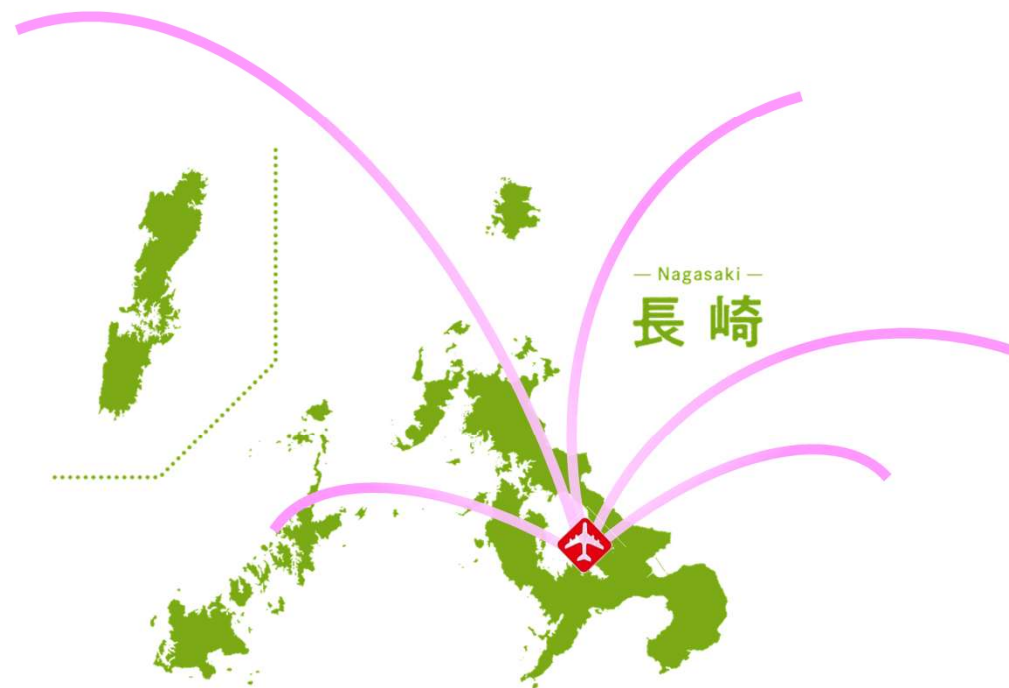
第 1 回 会議資料

◆日時

2026年4月24日(金)
15:00~16:30

◆場所

長崎国際航空ターミナル(株)
会議室



目次

1. 当会趣旨と目的、プラットフォームの概要
2. 今後のスケジュール（案）
3. 参画団体・企業のご紹介
4. 長崎空港について（長崎空港の概要、旅客・航空貨物の状況、NIACTの概要）
5. 荷主企業からの物流の現状説明（物流の状況）
フォワーダー、航空会社からの現状説明（各事業者からみた業界の状況）
6. 意見交換
7. 施設見学（NIACT内）

1. 当会の趣旨と目的、プラットフォームの概要

当会の趣旨と目的

- 2025年度の国内航空貨物取扱量は、昨今の機材小型化、コロナ禍の航空便減やその後の陸上輸送の定着なども相まって、速報値で5,978t（ピーク：2000年度21,273t）と低迷
- 国際航空貨物も9 t（ピーク：1996年度1,373t）まで落ち込んでいる



- 特に国際航空貨物においては、かつては上海向けの鮮魚や、造船関連部品などの輸送で活況を呈していたが、現在は輸出が「ゼロ」という極めて厳しい局面を迎えており、地域経済を支える航空物流機能の衰退が危惧される



- この状況を打開するためには、関係者（荷主・フォワーダー・航空会社・経済団体・行政・空港関係）の多角的な視点および協力・協働体制の確立が必要
- 航空貨物の利用促進に向けた実効性のある施策の検討/実行を推進していくための場として「官民連携プラットフォーム（航空物分野）」を設置



プラットフォームの概要

官民連携プラットフォーム(航空貨物分野)

2026年度

準備会

◆現状と課題に対する施策の【方向性】および【具体策】を検討

- 【業界ごとの】具体的な施策を検討



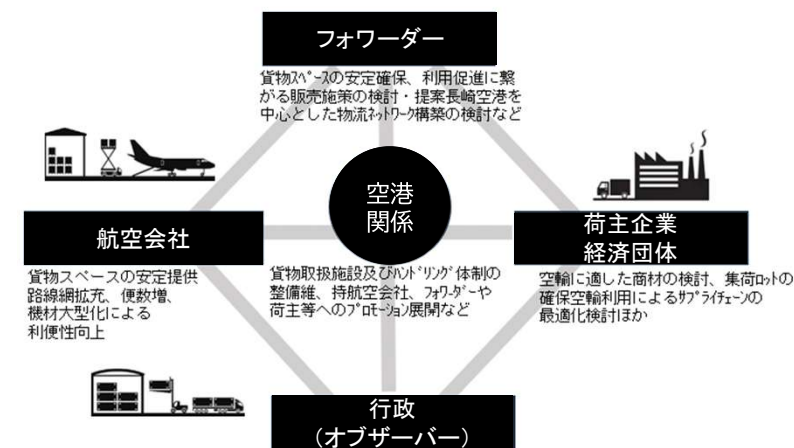
2027年度～

分科会

◆世話人※を中心に、実効性のある施策の検討／実行

- 短期的
中長期的] に、取り組むものを整理し、できることから実行

プラットフォームのイメージ

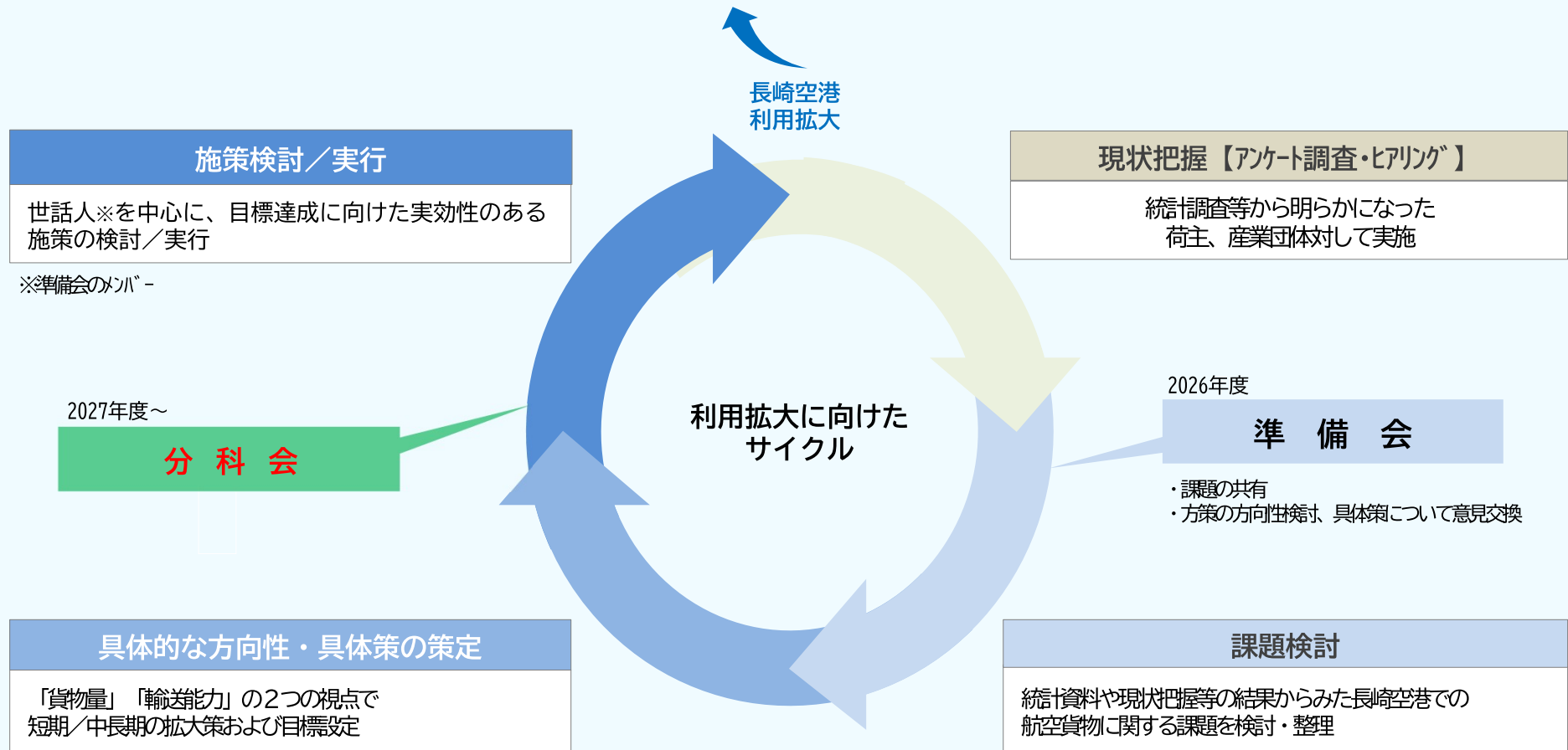


※準備会の参画メンバーの皆さまには、分科会においても「世話人」として、引き続き運営・実行の中核を担っていただくことを想定しております
課題解決に向け一貫性を持った継続的な体制構築を目指します

プラットフォームの概要

目指すところ:

- 国内 ➤ **コロナ禍前の貨物量水準（2018年度/13,439t）**
- 国際 ➤ **輸出に向けた環境整備**



2. 今後のスケジュール（案）

今後のスケジュール（案）

現状の共有

●4/24（金） 第1回

- プラットフォーム設置の目的についての共通認識
- 長崎空港の航空貨物の現状（課題感の可視化）
- 各業界における現状

航空貨物を取り巻く環境の理解の促進①

●5/25（月） 第2回

- 国交省航空戦略担当官による、航空貨物行政の現状と展望に関する専門講話
- 物流コンサルタントによる、半導体物流に関する専門講話

課題の検討・整理

●7月下旬 第3回

- 荷主・フォワーダー・航空会社それぞれの視点による「利用の障壁（需給のミスマッチなど）」の整理
- 現状把握から判った事実からの課題を抽出、整理（輸送のボトルネック等）
- 各業界の既存リソースの再確認

航空貨物を取り巻く環境の理解の促進②

●8月下旬～9月下旬 第4回

- 県内の新たな物流需要に関する講話

方向性の検討

●10月下旬 第5回

- ターゲット品目における「荷主×フォワーダー×航空会社」の連携、および既存輸送ルートや便を掛け合わせた、新たな「運ぶ仕組み」等のアイデア出し など

中間とりまとめ

●11月下旬～12月 第6回

- これまでの議論を集約した内容の取りまとめ
- 9月からの設置準備に向けた関係者間の協力体制の確認

分野ごとに 具体的施策の検討

●2027年4月～

- 世話人を中心に、各分野の「分科会」にて実効性のある施策の検討/実行

2. 参画企業・団体のご紹介

参画企業・団体

区分	団体・企業
荷主事業者	全国農業協同組合連合会 長崎県本部
	長崎魚市株式会社
	株式会社ウラノ
	SUMCO TECHXIV株式会社
運送事業者	幸運トラック株式会社
	佐川急便株式会社
	日本通運株式会社
	ヤマト運輸株式会社
航空関係	株式会社ANA Cargo
	オリエンタルエアブリッジ株式会社
	日本航空株式会社
経済団体関係	大村商工会議所
	長崎商工会議所
行政関係（オガザバー）	大阪航空局 長崎空港事務所
	長崎県
	大村市
	諫早市
空港関係	長崎空港ビルディング株式会社
	長崎国際航空貨物ターミナル株式会社

4. 長崎空港について（長崎空港の概要、航空貨物の状況、NIACTの概要）

長崎空港の概要

(1) 概 要

所在地 : 長崎県大村市
開港年 : 1975年 (世界初の海上空港)
滑走路 : 3,000m
アクセス : 長崎市中心部から車で約 40分
佐世保市中心部から車で約 70分
特 長 : 騒音問題が比較的少ない
天候の影響を受けにくい

(2) 就航状況

国内線 : 9 路線

- ・ 東京(羽田・成田)
- ・ 大阪(伊丹・関西)
- ・ 名古屋(中部)
- ・ 神戸
- ・ 離島(対馬・壱岐・福江)

国際線 : 3 路線

- ・ 上海 (1979年～) 運休中
- ・ ソウル (1988年～)
- ・ 釜山 (2026年1月～4月)
- ※香港 (2019年～) 運休中

(3) 旅客数実績

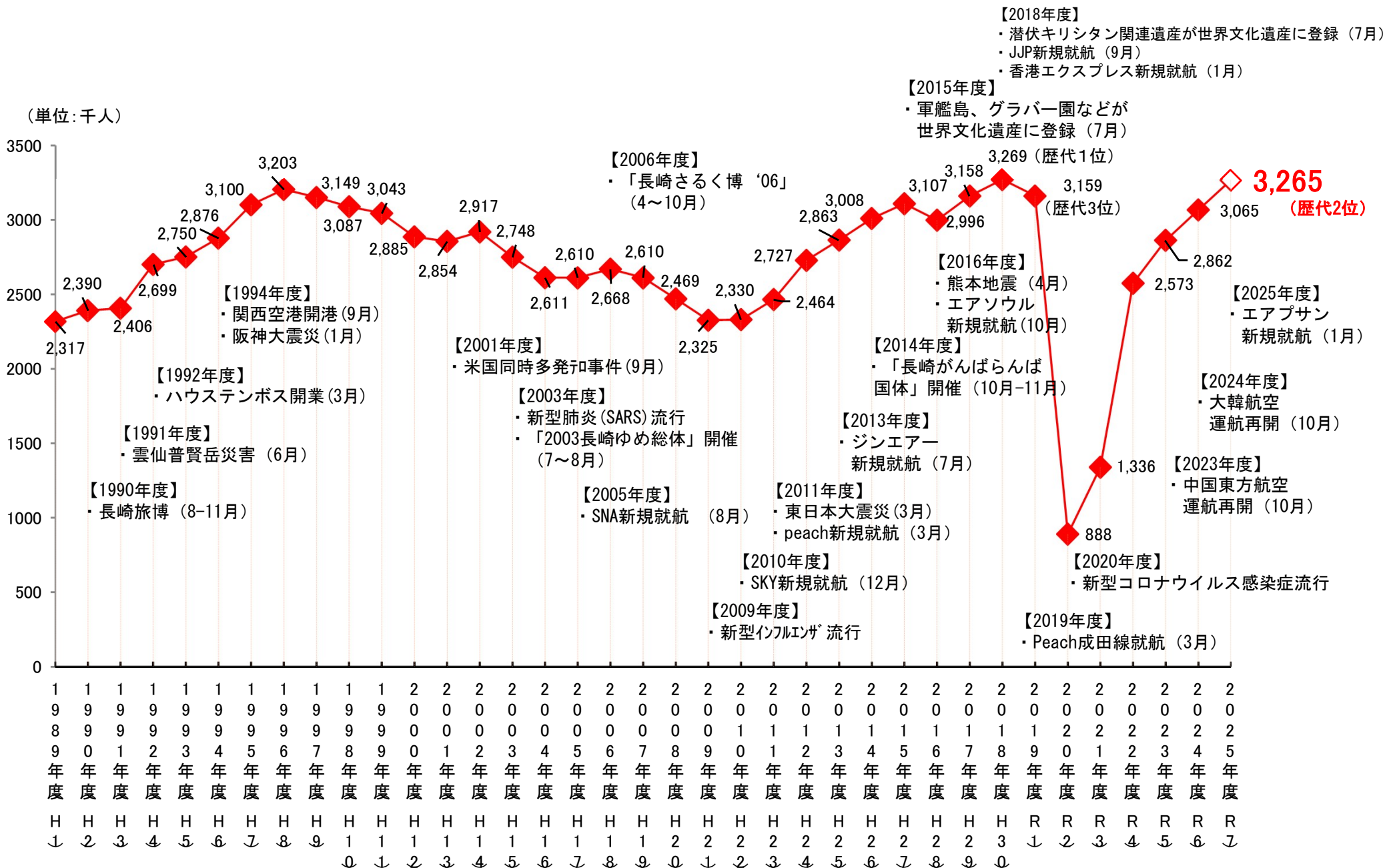
	2025年度 ※速報値	過去最多 (2018年度)
国内	3,196,123人	3,200,903人
国際	69,680人	68,584人
合計	3,265,803人	3,269,487人

過去最高更新に
あと3,700名弱まで迫った

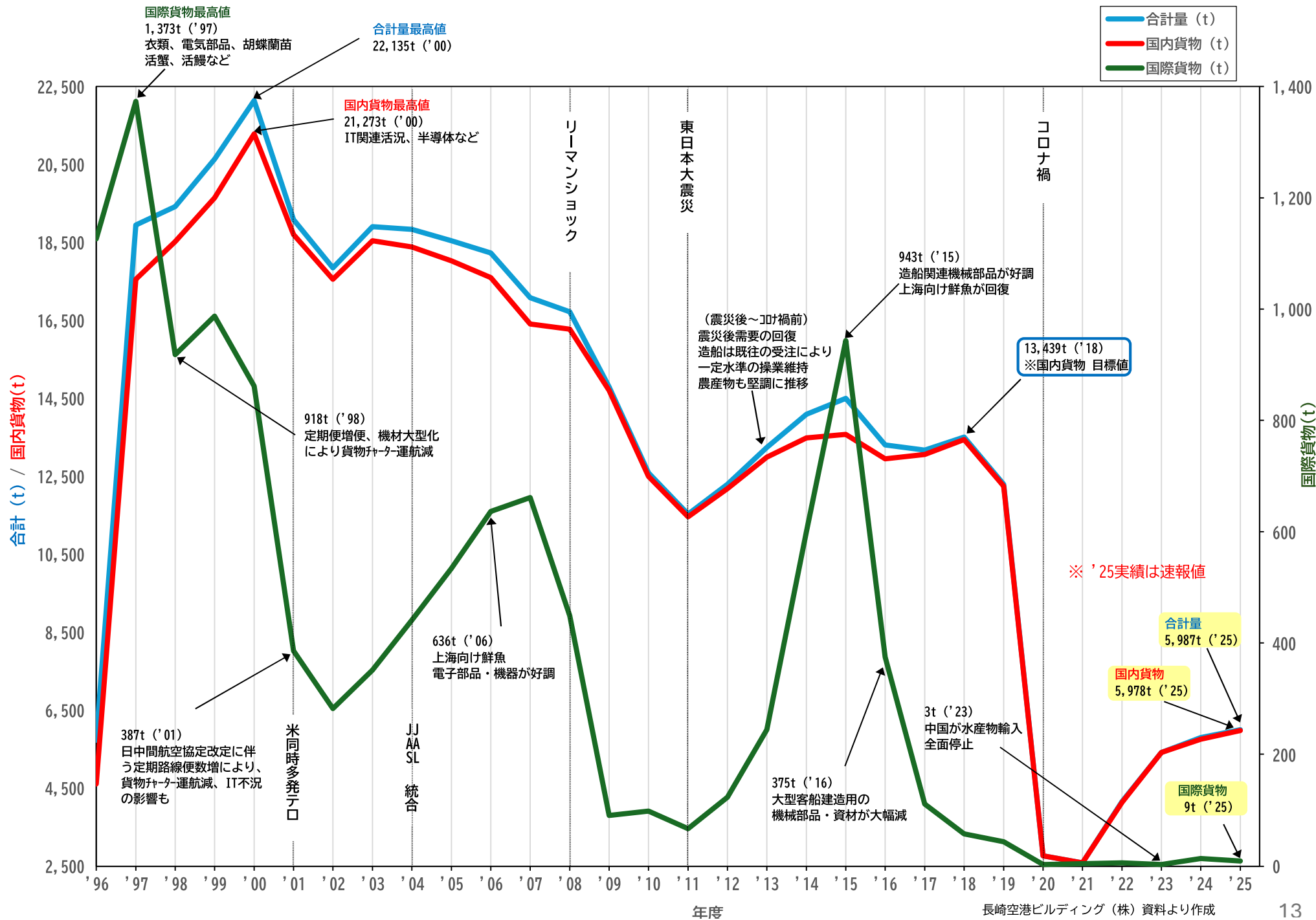
最もインバウンドが好調であった時期
国際線については、
2014年度 76,513人が最多



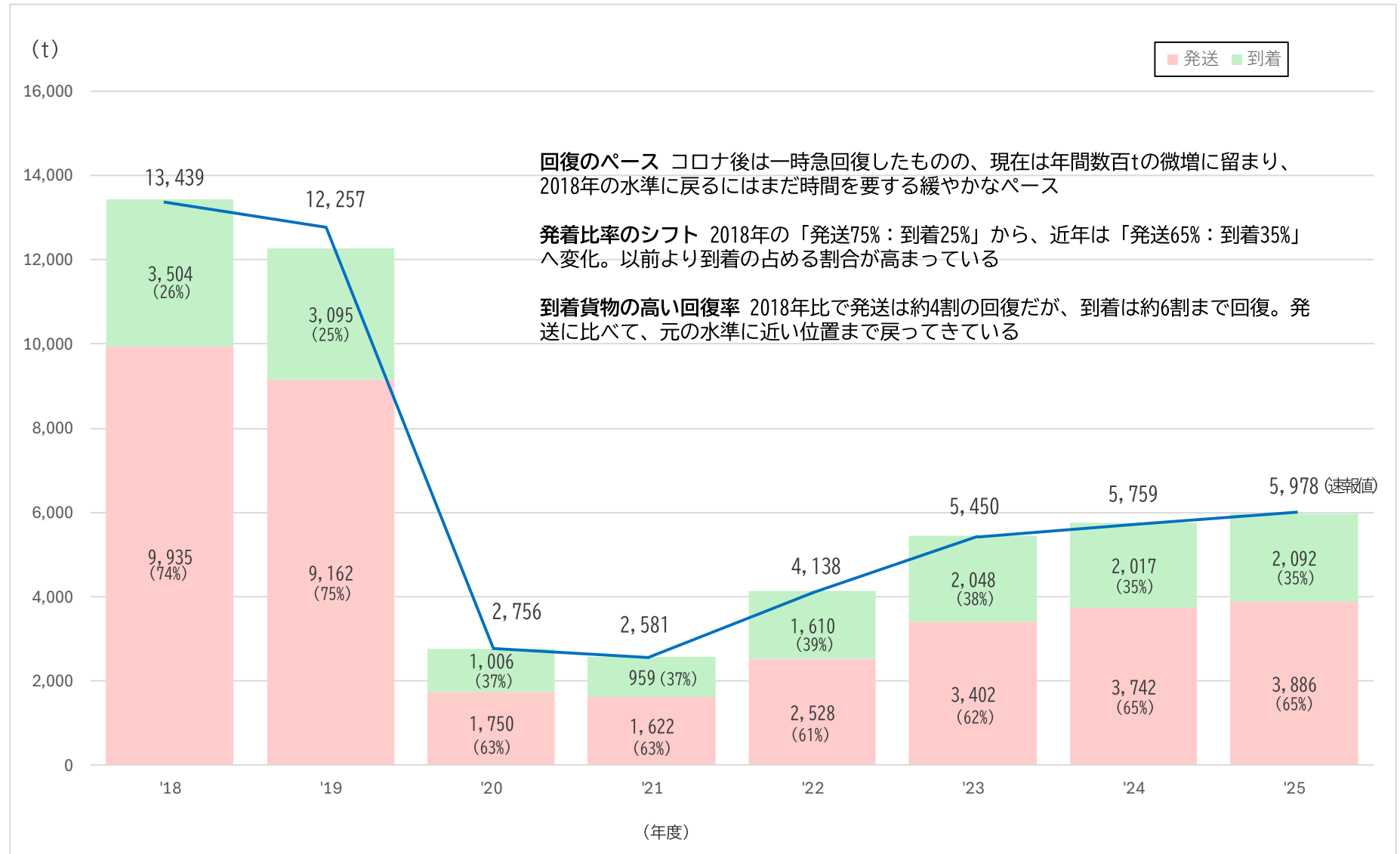
長崎空港の旅客数（推移）



長崎空港の航空貨物量（推移）

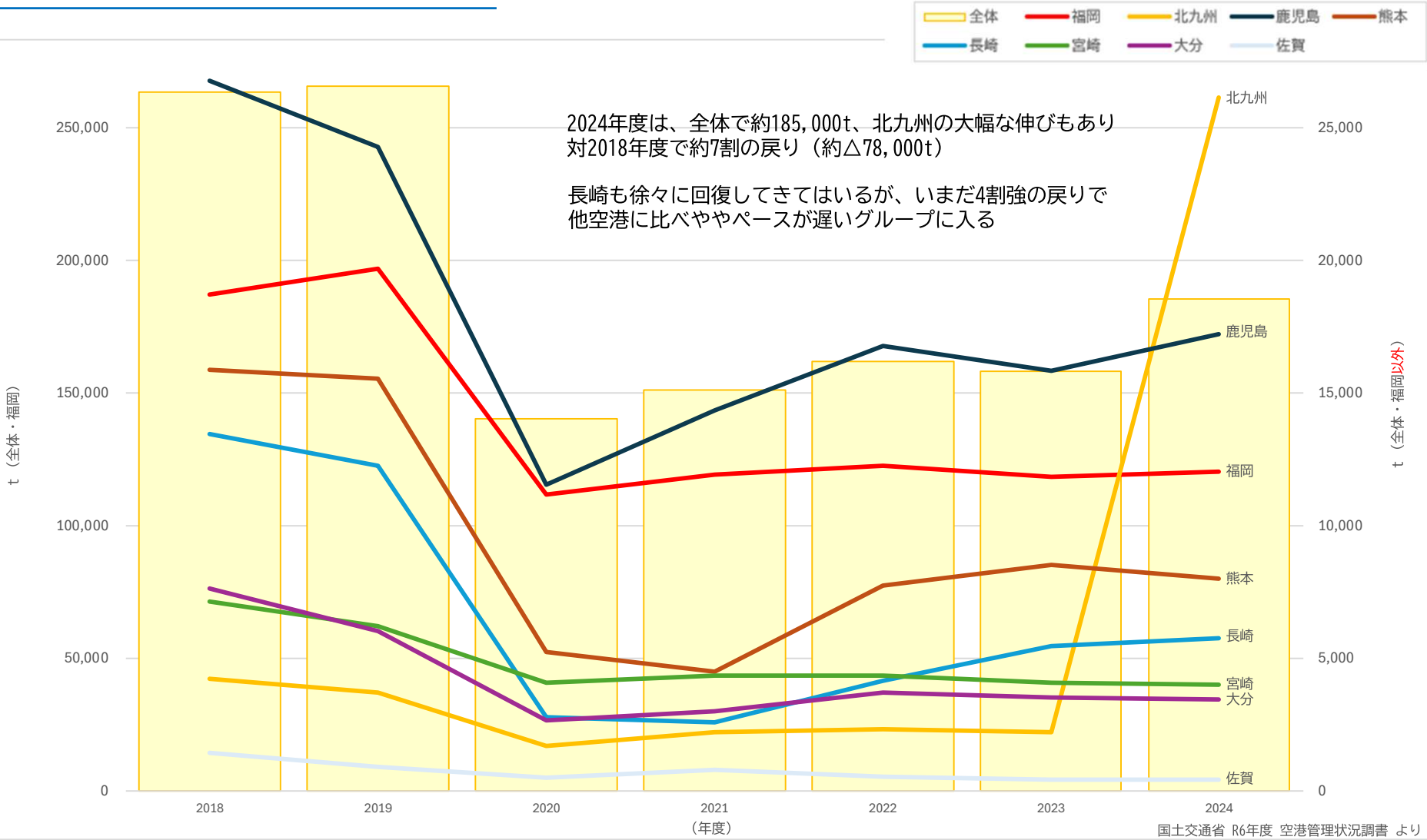


長崎空港の航空貨物量（発着）



	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
航空貨物量	13,439	12,257	2,756	2,581	4,138	5,450	5,759	5,978
（発送）	(9,935)	(9,162)	(1,750)	(1,622)	(2,528)	(3,402)	(3,742)	(3,886)
（到着）	(3,504)	(3,095)	(1,006)	(959)	(1,610)	(2,048)	(2,017)	(2,092)
発送割合	74%	75%	63%	63%	61%	62%	65%	65%
到着割合	26%	25%	37%	37%	39%	38%	35%	35%

九州内空港との比較（推移）

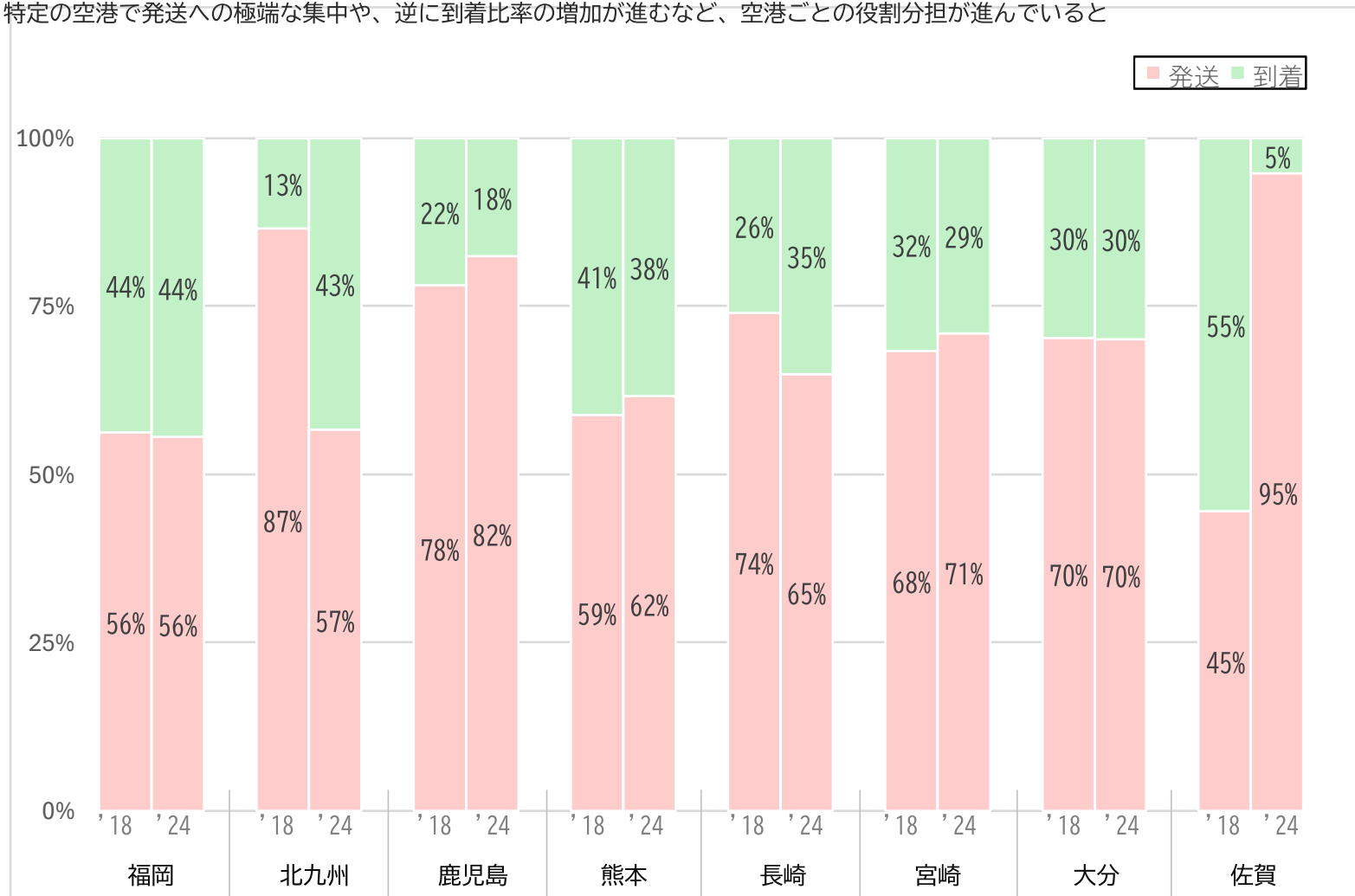


年度	福岡	北九州	鹿児島	熊本	長崎	大分	宮崎	佐賀	全体
2018	186,990	4,204	26,752	15,872	13,439	7,603	7,129	1,404	263,393
2019	196,685	3,707	24,274	15,508	12,257	5,999	6,200	885	265,515
2020	111,669	1,684	11,526	5,221	2,756	2,648	4,074	476	140,054
2021	119,084	2,185	14,324	4,485	2,581	3,005	4,326	784	150,774
2022	122,392	2,310	16,741	7,713	4,138	3,709	4,319	521	161,843
2023	118,146	2,196	15,827	8,491	5,450	3,508	4,065	404	158,087
2024	120,216	26,138	17,211	7,981	5,759	3,441	4,009	398	185,153
2024vs2018	64%	622%	64%	50%	43%	45%	56%	28%	70%

九州内空港との比較（発着）

九州の最大拠点である福岡は「発送5.5：到着4.5」のバランスを維持。対照的に、近年シェアを急拡大させた北九州は「発送9割」という極端な偏りから、福岡に近いバランスへと変化し、汎用的な物流拠点へと性質が変化していると推測

佐賀のように「発送地点」の性質を強めた地点がある一方で、長崎は到着の割合が増加。発送が中心である構造は変わらないものの、特定の空港で発送への極端な集中や、逆に到着比率の増加が進むなど、空港ごとの役割分担が進んでいると推測



NIACTの概要

- ・ 名 称 : 長崎国際航空貨物ターミナル株式会社 *NIACT*
- ・ 略 称 : NIACT(ニアクト) *N*agasaki *I*nternational *A*ir *C*argo *T*erminal
- ・ 設 立 : 1992年9月14日 (営業開始: 1994年8月26日)
- ・ 資 本 金 : 10億8,300万円 (主要株主: 長崎県、NABIC、ANA、JAL等)
- ・ 主要事業 : ①航空貨物ターミナルの運営
②事務所、保税蔵置場、荷捌施設の管理及び賃貸
③国際国内航空貨物の荷役、保管
- ・ 管理施設 : 貨物地区の敷地 (総敷地面積: 18,513.42㎡)
代理店棟 (庇込み) 鉄筋造2階建 (面積: 1,558㎡)
航空会社棟 (庇込み) 鉄筋造平屋建 (面積: 2,957㎡)
テント倉庫 (面積: 688㎡)
駐車場 (トラック用駐車場46台分、乗用車用79台分)
- ・ 運用時間 : 6:30~22:00



NIACT 設立の経緯

1990年に策定された「長崎空港国際物流センター計画」の中核施設として、1992年9月に設立
長崎空港が国の輸入促進地域 (FAZ) として承認を受けたこと、また、当時成田空港における国際航空貨物の取り扱いが飽和状態であったこともあり、1994年8月に開業した

* 設立時の取扱量想定 (1994年度) 国内3万t、国際2万t ➤ (2004年度) 国内4万t、国際10万t

NIACTの概要



航空会社棟

代理店棟

【NIACTの利用者】

- ・ 航空会社
- ・ 貨物代理店
- ・ 運送会社
- ・ 航空会社へ貨物輸送を依頼する一般利用者
- ・ NIACTおよび各テナントへの訪問者
- ・ 施設関係業者（ビル管理、清掃、工事業等）
- ・ 官庁関係者（航空局、税関等）
- ・ その他

NIACTの概要

滑走路

制限区域

NIACT
保税蔵置場

事務室

オリエンタル
エアブリッジ

日本航空

W
C

全日空

航空会社棟

テント倉庫

駐車場

コンテナ
置場

(2階)

会議室

W
C

NIACT
本社

会議室

オリエ
ンタル
エアブリッジ

(1階)

ア
ナ
サ
ー
レ
ン
タ
ー
カ
ー

日本
空
輸

島
鉄
W
C

佐
川
急
便

五
衛
門
企
画

日本
通
運

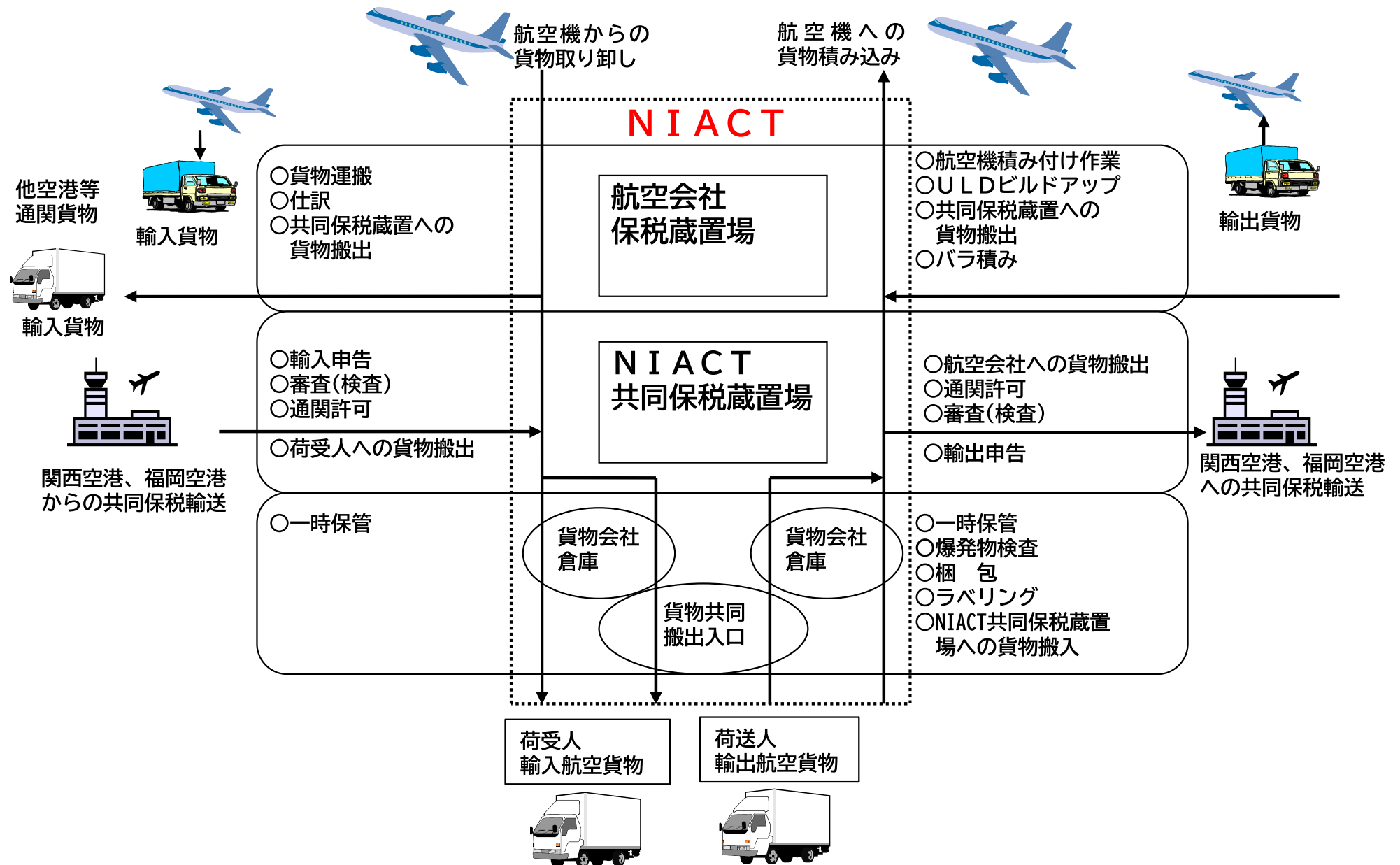
代理店棟

入
場
門
ゲ
ー
ト

来
客
用
駐
車
場

駐車場

NIACTの概要（保税蔵置場施設／貨物の流れ）



5. 荷主企業からの物流の現状説明（物流の状況）

フォワーダー、航空会社からの現状説明（各事業者からみた業界の状況）

【テーマ】

貴社（または貴組織の業界）におけるコロナ禍前とコロナ後の物流の変化について

（ 内容 ）

- ・現状の変化（荷動き、物量、輸送ルートの変遷など）
- ・現在の課題（現場での困りごと、コスト、2024年問題など）
- ・今後の見通し（これからの展望や注力する点など）

（時間目安）

- ・各5分程度

（進行順序）

- ・荷主の皆さま （①JA長崎 ②長崎魚市 ③ウラノ ④SUMCO TECHXIV）
- ・フォワーダーの皆さま （①幸運トラック ②佐川急便 ③日本通運 ④ヤマト運輸）
- ・航空会社の皆さま （①ANA Cargo ②ORC ③日本航空）

※航空貨物を含めた全般的な内容で、公表できる範囲内で構いません